

「国際平和都市宣言のまち」らしく

戦争する国へのどんな企ても許しません

日本共産党



市役所南玄関前に建つ国際平和都市宣言の看板



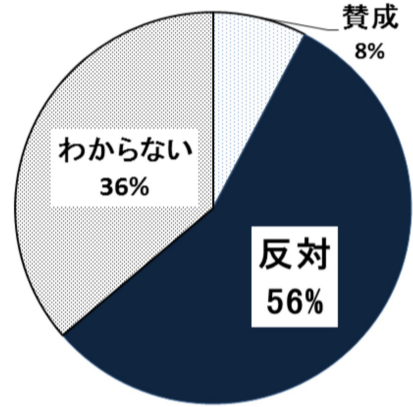
森ケイ子 (57-2753) 東よしき (54-7977) かけのまち子 (53-7727)

櫻井よしこ氏は、復古的改憲論支持、原子力発電推進、TPP推進、外国人地方参政権反対などを主張している。国家基本問題研究所の理事長で、昨年秋設立された「美しい日本の憲法をつくる国民の会」の共同代表の

市制60周年記念講演会に 櫻井よしこ氏を依頼した市の見識を疑う

安倍内閣は、国家安全保障会議（日本版NSC）、秘密保護法を成立させ、集团的自衛権行使容認議決など憲法に反して「戦争する国」に一気に変えようとしています。

そんな中、3月14日（土）の市制60周年・江南市民文化会館30周年記念市民文化講演会の講師として櫻井よしこ氏を決定しました。12月議会で日本共産党議員団は中止するよう追及しましたが、誠実な対応を得ることは出来ませんでした。



集团的自衛権行使容認 (日本共産党議員団による市民アンケートから)

一人です。この会は、安倍内閣の動きと一体になって憲法9条を壊す国民投票の実現のため積極的に運動を展開しています。

こうした団体の中心的存在である氏の最近の言動は
・現日本国憲法の否定
・南京虐殺事件・慰安婦問題の不存在の主張
など侵略戦争の反省もなく、戦後日本の在り方を否定しています。

市は憲法を尊重し守る義務が

第2次世界大戦後の国際秩序は、日独伊による侵略戦争を不正不義のものとして断罪することを共通の土台としています。

だからこそ日本政府は、東南アジア諸国と未来に向けた良好な関係を築く決意を込めて、1995年「我が国は遠くない一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで、国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸

今こそ大切な日本共産党の議席

日本共産党は創立以来93年命がけて侵略戦争に反対し、国民の基本的な人権擁護のために奮闘してきました。しかし「憲法改正」勢力は、侵略戦争の反省もなく①天皇の元首化②9条2項を変え国防軍創設③基本的人権の制限など、戦前に逆戻りさせようとしています。

世界の流れは他国の中で生ずる外交問題は国連を中心に軍事的対決を避け、話し合いで解決する方向に向かっています。

日本共産党の3議席は憲法を守る確かな力です。

また、「一日も早く核兵器を撤廃し、国際平和を実現するため平和行政を推進し、国際交流を活発にして、相互の理解を深めることを目的」とした江南市国際平和都市宣言にも反します。

これでいいのか 中学生の職場体験学習

中学生が知見を深め将来の職業選択の参考とするため、職場体験学習が実施されています。

最近、近隣市町の中学で自衛隊の職場体験学習の例がありました。江南市でも2012年、ある中学校で15人の生徒が小牧基地、春日井駐屯地で体験学習をしました。

他の職業と同列に並べて戦闘行為をする自衛隊を選択させることに、不安を持つ保護者の声が聞かれます。



防災訓練に参加した軽装甲機動車 (防衛省ホームページから)

防災訓練に装甲機動車が必要か

昨年11月、すいとびあ江南北側の河川敷で南海トラフ地震を想定して行われた江南市総合防災訓練に、堀市長の強い意向で自衛隊が参加しました。写真のような軽装甲機動車と迷彩服の自衛隊員が訓練を行いました。

市民が主体の防災訓練になぜ自衛隊が参加するのでしょうか。自衛隊をことさら強調するのは安倍政権が「戦争できる国」を目指していることと軌を一にしているようです。